

2010年東亜天文学会総会松江大会報告

松江大会事務局 安部裕史

今年度の大会は9月18日(土)19日(日)、島根県松江市の松江テルサを会場に開催されました。その内容を報告します。

I 大会プログラム及び総会の概要

第1日目 9月18日(土)

1. 開会

大会事務局のあいさつにより、松江大会が始まった。

2. 総会

(1) 議長の選出

議長を松江大会事務局の安部裕史とすることが拍手で承認され、以下議長により議事が進行した。

(2) 議事録署名人の選出

会場からの次の2名の推薦があり、拍手で承認された。

- ・酒井 栄 (岩手県奥州市)
- ・野村敏郎 (兵庫県神戸市)

(3) 総会成立の確認

渡辺美和理事から、委任状及び出席者の状況についての報告があり、総会が成立していることが確認された。

- ・現在の維持会員と委員総数117名
 - ・出席者20名、委任状提出者60名、計80名
- 以上により、過半数を超えている。(会則43条)

(4) 議案

第1号議案

新任役員報告(平成22年6月21日評議員会議決済み)

- 会長 関 勉 (彗星課長)
- 副会長 黒田武彦 (教育部長)
- 理事長 山田義弘 (編集部長)
- 理事 野村敏郎 (神戸支部長、発見賞委員)
- 渡辺美和 (総会他会議全般担当、歴史課長)

長谷川会長、古川副会長、井上副会長、藪理事は、2010年6月21日を以て、それぞれの職を辞任された。

この議案内容はすでに評議員会で議決済みであることから、議長の読み上げによる報告事項として取り扱い、拍手により承認された。

(会場からの発言なし)

引き続き、5名の新役員のあいさつがあった。

第2号議案

2009年度会計報告と2010年度予算報告

「天界」2010年9月号292-297ページに掲載させたものと同様の内容が、山田理事長から提案があった。この議案内容については8月27日を議決日とした評議員会の書面表決により議決済みであることから、報告事項として取り扱い拍手で承認された。

(要望)

○評議員・委員の出席確認の葉書の中に、多くの意見の記載があった。これらの意見を今後の会の運営に反映していただきたい。

第3号議案

天体発見賞に関する細則《改正》

第4条受賞資格、第6条選考委員会の設置、第7条選考期間と表彰、第10条実施期間の改正について山田理事長から提案があった。

第2号議案同様、この議案内容についても評議員会で議決済みであることから、報告事項として取り扱い、拍手で承認された。

なお、この議案については様々な質問、意見や要望があった。

(質問)

○海外会員は、賞状またはメダルが授与されるとあるが、国内会員には他に何が授与されるのか。

→国内会員には「賞金」があるが、海外会員にはない。(山田理事長)

(意見・要望)

○第4条受賞資格のうち「日本国内に在住している人に授与する」の項はないほうがよい。会員は平等であるべき。

○同じ会費を払っている会員が、「賞金」については海外会員が差別を受けることになる。国内会員と同等の取り扱いをすべきである。

○継続審議にすべきだ。

○評議員会の議決ではなく、最高議決機関の総会の議決とすべきである。

○執行部から議案の取り下げがないのであれば、出席者及び委任状により採決をとるべきだ。

○議論を深めて拍手ではなく挙手により、多数決を取るべきだ。

○細則の改正であり、総会で議決すべき事項ではない。すでに評議員会で議決済みである。

○細則と会則は同じだと思う。

○会則により、会則の施行の詳細は評議員会において決定することになっている。

以上の3つの議案がすべて承認された後に、次の希望・要望があった。

(希望・要望)

○2011年3月で任期が切れる評議員選挙を着実に実施してほしい。
○会則の改正が評議員会で継続審議になっている。メーリングリストの活用など、評議員会の進め方を検討いただきたい。

(5) 表彰式

今回の表彰対象者は次のとおりで、うち5名の出席があった。表彰に続いて、各受賞者からあいさつがあった。

①新天体発見賞（期間：2009年8月1日～2010年7月31日）

- ア. 西山浩一氏
- イ. 椛島富士夫氏
- ウ. 板垣公一氏（出席）
- エ. 西村栄男氏（出席）
- オ. 坪井正紀氏（出席）
- カ. 小嶋 正氏
- キ. 多胡昭彦氏
- ク. 櫻井幸夫氏

②東亜天文学会賞

- ア. 長谷川一郎氏（出席）

2000年1月より2010年6月まで10余年にわたり、本会会長を務め、後進の指導、会の運営などに渡り、我が国天文学の発展と本会の活動に多大な貢献をなされた。

③山本一清記念東亜天文学会学術研究奨励賞

- ア. 松本直弥氏（出席）

本会の活動を精力的に支援、また、その活動状況は「天界」を通じて、会員にも広く伝え続けて居る。

3. 記念撮影（本号の表紙に掲載）

4. 記念講演 「出雲の魅力」 荒神谷博物館館長 藤岡大拙氏

5. 次期開催地の発表・あいさつ

次期開催地を代表して、渡辺理事から東京もしくは千葉での開催の発表とあいさつがあった。

6. 懇親会（リストランテ ベッキオロッソ／島根県立美術館内レストラン）

第2日目 9月19日（日）

1. 研究発表（敬称略）

次の8つの発表があった。ポスター発表以外の発表時間は12分であった。

(1) 研究発表

- ①「公開天文台の現状とその活用」

兵庫県立西はりま天文台公園 園長 黒田武彦（兵庫県姫路市）

- ② 「天文民俗学の課題—試論150の連載をめざして、さらに200の連載をめざして」
東亜天文学会 民俗課長 北尾浩一（兵庫県芦屋市）
- ③ 「西暦714年の「唐開元占経」の彗星記事について」
作間幸太郎（山口県山口市）
- ④ 「カメラオブスキュラの復元」
大西道一（兵庫県神戸市）
- ⑤ 「JAXAはやぶさカプセル地上観測チームに参加して」
東亜天文学会 流星課長 上田昌良（大阪府羽曳野市）

(2) 地域からの話題

- ① 「新屋太助「大保恵日記」の中の変星（1830年）と皆既日食（1852年12月11日）」
松江星の会 安部裕史（島根県松江市）
 - ② 「美保関隕石物語」
松本 優（島根県松江市）
- ※時間の都合上、(1) 研究発表の途中での発表となった。

(3) ポスター発表

- ① 「小惑星“平泉”」
酒井 栄（岩手県奥州市）

2. 特別講演

「クロイツ属彗星 発見の日」

東亜天文学会 会長 関 勉
(高知県高知市)

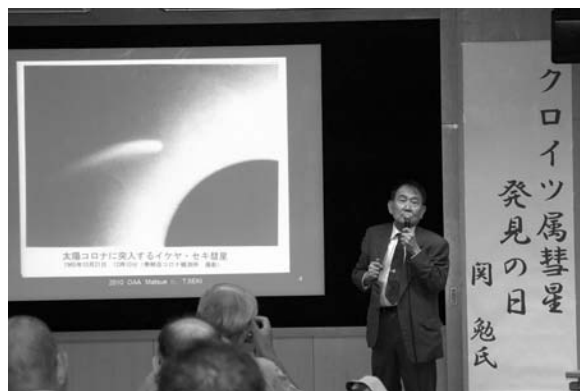
3. 前会長からのお話

「東亜天文学会に期待すること」

東亜天文学会 前会長 長谷川一郎
(兵庫県神戸市)

4. 閉会

関会長からあいさつがあり、来年の東京もしくは千葉大会での再会を誓った。



II 大会運営

大会事務局として、大会の運営などについて報告します。

1. 開催決定

松江での開催の打診を受けたのは、2008年の年末、当時の中野圭一理事長からでした。早速、所属する松江天文同好会（現、松江星の会）の役員である佐藤寧志さん、金津和義さん、地元の星仲間である米子星の会の池口邦雄さん、塚田慎介さん、そして日原天文台の斎藤和幸さんに連絡を取り、受諾を決定し、中野理事長には受け入れが可能であることを伝えました。

その後、学会の運営が混乱していることは「天界」等で知ることになったわけですが、私としては「天界」2009年9月号で2010年の開催地が松江と明記されていることを受け、粛々と準備していくこととしました。

2009年9月に開催された掛川大会への参加申し込みが遅れていたところ、評議員で総会担当の佐竹真彰氏からの連絡もあり、掛川大会に参加し、次期開催地としてのあいさつをさせていただきます。

2010年の松江大会の開催時期や方法については、渡辺美和理事長に相談しながら、中野理事長にも同様の情報を提供しながら進めました。

困ったこととしては、開催日をなかなか決定できなかったことでした。事業年度からして新年度が始まって数ヶ月の時期での開催が望ましいと考え、6月頃の開催も想定しました。しかしながら、これからの学会運営がどのようになって行くのか分かりませんでしたので、前年の掛川大会と同時期の9月中旬に行うことを前提として準備に取り掛かりました。

2. 準備

大会日程は2日間とし、2008年の金沢大会を参考にしました。また、会場については参加者の利便性を最優先とし、JR松江駅前の交通アクセスがもっとも便利な場所としました。

大会構成はこれまでと同様に総会・講演・研究発表・懇親会を軸としました。新体制になることもあり、関勉新会長並びに長谷川一郎前会長の両氏にはぜひともお話をお願いしたい旨をお伝えし、ご快諾いただきました。

また、参加されたみなさんが松江での開催が思い出として残るような大会を意識し、記念講演や懇親会会場を設定しました。

さらに、参加されるみなさん、そして大会に興味がある方にとって、大会の内容及びわかりやすく伝えるように「天界」2010年7月号の第一報に合わせて専用のホームページを開設しました。

3. 大会

初日は、第一の目標として総会が整然と開催されることに心掛けました。初日の内容は、あえて星や天文の話題をできるだけ少なめ、会の運営や松江という地域性を意識した構成としました。地元の藤岡大拙氏の「出雲の魅力」の絶妙な講演では神話の時代からの出雲地方の歴史や風土に出会い、さらに「懇親会」会場からの宍道湖畔の夕陽の美しさはある意味では星の世界さえ忘れさせ、さらに昨年の掛川大会で美声をお聞かせいただいたコーラスグループ「ハツラズ」の5名のみなさんにも駆けつけていただき（松江でも美声をご披露いただきました）、参加されたみなさんの友好と親睦が図られたと思います。

2日目は、初日とは違って変わって星の話題が盛りだくさんとなりました。研究発表では12分の短い発表時間でしたが、演者のみなさんの集中したお話を聞くことができました。また、地域からの話題として、「美保関いん石」の所有者である松本優氏からは、いん石落下の様子はもとより、いん石を通しての人々との交流をお話いただきました。

関会長からは「クロイツ属彗星発見の日」と題しての特別講演でした。ちょうど45年前、1965年9月19日朝、氏は池谷－関彗星を発見されています。池谷－関彗星発見当日の感動の様子をまるで今朝の出来事のように鮮明にお話されたのが印象的でした。

続く長谷川前会長のお話は、今回、氏が会長職を引退されることもあり、私から昨今の会の運営を踏まえてお話ししていただきたい旨をお願いしました。氏は「東亜天文学会に望むこと」としてお話を進められ、「人に優しい東亜天文学会であってほしい」と結ばれました。

4. 大会運営

地元の受入体制については、大会に関する情報は事務局の私が一元管理し、集まった情報は松江星の会メーリングリスト（約30名登録）で連絡して関係者で情報の共有化を図りながら進めました。

また、松江大会のホームページについては、みなさんからいただいた情報を私が整理し、松江星の会ホームページ管理者である金津さんの管理のもとで公開していくという手順を取りました。役割分担をしたことで掲載内容の相互チェックができ、必要にして十分な内容を早くお届けできたと思っています。

大会当日も運営スタッフが自分のやるべきことを明確にすることに心掛けました。それぞれの運営スタッフに一つ一つ役割があったことはもちろんですが、表彰式では補佐役を長繁美夏さんと安達道子さんが、藤岡大拙氏の紹介は佐藤さん、研究発表の進行は塚田さんと佐藤さん、関新会長の紹介は金津さん、長谷川前会長の紹介は私というように、多くの運営スタッフが大きな舞台に立つという貴重な経験もさせていただきました。

5. まとめ

いくつかの提案をしてまとめとします。

総会については、総会そのものの役割、さらに総会に参加した会員の役割がわかりづらく感じました。これは会則がわかりにくい、もしくは会員への周知不足によるものと考えます。会にはいくつかの会議体ありますが、それぞれの会議体の役割や体制をもっと明確にして、わかりやすい会則にしていくことが必要であり、そのことは総会をはじめとしてそれぞれの会議体の議事運営を円滑に進行するためにもとても重要なことと考えます。また、議案については、会計以外にも執行部や各支部・各課のわかりやすい活動報告や計画があると会員にとって会が身近に感じるのではないのでしょうか。

最後に、関会長、長谷川前会長をはじめとした多くの執行部、参加されたみなさん、そして地元の仲間を支えられて松江大会を無事に運営することができました。心からお礼申し上げます。

飯沢能布子「星の七宝展」のお知らせ

星座と花をテーマにした「星の七宝展」が、11月15日(月)～20日(土) 11:00-19:00 (最終日17:00)まで、東京都千代田区神田小川町3-28-13 世界観ギャラリーで開催されます。

問合せ ギャラリー：☎ 03-3233-0204 (間瀬)、アトリエ：☎ 0123-88-3368 (飯沢)